

■ ■ 卒後臨床研修評価機構
■ ■ 認定病院

Japan Council for Evaluation of Postgraduate
Clinical Training

JCEP

医師臨床研修のご案内

2023年度 臨床研修医募集

最前線で磨く
医の心と技

地方独立行政法人 奈良県立病院機構

奈良県西和医療センター

NARA PREFECTURE SEIWA MEDICAL CENTER



動画説明をご覧ください。

奈良県西和医療センター 初期臨床研修プログラム



病院の詳細ページはこちら

2021年10月11日 奈良県西和医療センターオンライン説明会



病院の詳細ページはこちら

※ 民間医局「レジナビWeb」のホームページからもご覧いただけます。

理事長あいさつ	4
総長あいさつ	5
院長あいさつ	6
卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定	7
病院概要	8
奈良県西和臨床研修病院群	9
理念と基本方針	10
研修理念とプログラムの特徴	11
奈良県西和医療センター臨床研修の実際	12
臨床研修プログラム	13
科目について	14
各診療科の特色	
総合内科、感染症内科、腫瘍内科	15
腎臓内科、循環器内科	16
消化器・糖尿病内科	17
中央内視鏡部、呼吸器内科、脳神経内科	18
小児科	19
外科・消化器外科	20
脊椎脊髄外科、整形外科・人工関節センター、脳神経外科	21
心臓血管外科、ICU/CCU、皮膚科	22
形成外科、泌尿器科、産婦人科	23
眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科	24
放射線科、麻酔科	25
集学的循環器病治療センター	26
連携病院での研修	27
学会施設認定および厚生労働省による特殊治療施設認定	33
学術教育活動	
大和川メディカルアカデミー、西和医療センター医学雑誌	34
医学生と研修医のための日本内科学会ことはじめ	35
教育体制	
研修医のためのモーニングカンファレンス	36
内科統合カンファレンス	37
臨床病理検討会（CPC）	38
研修医セミナー	39
院外講師による特別講座	42
Bolstad 先生による Clinical English Program	56
シミュレーショントレーニング	58
院外研修	67
院内取り組みについて	
災害医療	68
災害訓練	69
COVID-19 診療（研修医の関わり）	70
COVID-19 ワクチン接種会場への研修医派遣	71
研修医の日常	
当直業務、奈良県立病院機構忘年会	72
臨床研修修了祝賀会	73
医師臨床研修修了証授与式、臨床研修医同窓会	
研修医の集い in 奈良、直近 5 年間の研修修了後の進路	74
先輩の声	75
研修設備、待遇	97
募集要項	98
病院見学のご案内、Web 説明会のご案内	99
学生見学申込書	100

地方独立行政法人 奈良県立病院機構の理事長を務めています上田 裕一です。「医師としての第一歩となる初期臨床研修をどの施設で始めようか？」と思案中の医学部生の皆さんに、奈良県西和医療センターを紹介させていただきます。本法人は理念に『医の心と技を最高レベルに磨き、県民の健康を生涯にわたって支え続けます。』を掲げています。この理念を達成する人材となる医療専門職の採用には「君が奈良の未来だ！」とホームページに謳っており、奈良の未来の医療を支える初期臨床研修医の皆さんには、臨床現場で「医の心と技を磨き」、優れた医療を実践できるように研修を指導いたします。

さて、奈良県西和医療センターは、長い歴史のある奈良県立三室病院から、平成 26 年 4 月に地方独立行政法人 奈良県立病院機構の下に改組されました。法人化についての説明は省きますが、名称が変わっただけではなく種々の新たな取り組みを実行しています。西和医療センターは、地域に密着したプライマリーケアから、集学的循環器病治療センター・消化器がん低侵襲治療センター・人工関節センターなどの高度な医療まで幅広く診療を展開しています。これらのセンターは、診療科の枠を超えて各専門医とメディカルスタッフが緊密に連携できるように体制を強化したものです。つまり、初診や救急からこうした高度医療まで、各場面で臨床研修ができる機会を提供しています。

また、法人内には『医療専門職教育研修センター』が併設されていますが、県内の医療専門職（医師、看護師、薬剤師、各種技師などの国家資格を持つ医療者）に加え、事務系も含めた医療に従事する多職種に対して、卒後から生涯教育まで教育研修を展開します。中でも、医師法で規定された初期臨床研修は、冒頭にも記載しましたように「医師としての第一歩」ですから、極めて重要な修練と位置付けています。おそらく皆さんは、知識や技術の修得機会はどうかに注目されていることと思いますが、私は、診療規範や医師としての診療態度を身につける貴重な時期であると考えています。それには、指導医と研修医の関係に留まらず、多職種とのチーム医療が充実した臨床現場で体得することが重要です。研修医の皆さんには、個人のテクニカル スキルの向上に加えて、医療現場のチームに必要なノンテクニカルスキルを身につけ、まさに、当法人の理念である「最高レベルの医の心と技を磨く」ことが達成できるように、修練・診療環境を整えて参ります。なお、法人化に伴い初期研修医の処遇についても見直しており、改善しております。

奈良県西和医療センターは皆さんの期待に応えることのできる臨床研修施設とであると確信しています。奈良の地で、意欲あふれる皆さんとともに充実した医療を患者さんに提供できることを願っています。



理事長 上田裕一

奈良県西和医療センター総長の齋藤能彦です。私は、本年の3月31日まで奈良県立医科大学に勤めておりました。西和医療センターは、まだ新米です。しかし、病院に勤め始めて、肌で感じるがあります。それは、西和医療センターの理念に「患者さんを家族のように愛する、良い医療をより多くの患者さんへ」とありますように、病院に入った時に感じる、スタッフ全員が患者さんを大事にしている雰囲気です。このような病院で、医師としての第一歩を歩み始めることは、きっと皆様の医師としての人生に、計り知れない良い効果があると思います。上田裕一理事長も、奈良県立病院機構の理念を述べておられますが、医師は、「医の心と技を最高レベルに磨く」必要があります。この両方とも同等に重要です。皆様が医師を志した頃、そして、おそらく、医師として働き始める時には、患者さんのために働きたい、病める人に寄り添いたい、と自然に思っていたはずですが、それこそまさに医の心です。ところが、医師になり慣れてくると、また、ぞんざいな医師の中で働いていると、その医の心を忘れる人が時々おられるのです。しかし、医師1年目に、「患者さんを家族のように愛する」医の心の文化の中に身を置けば、それは、知らず知らずのうちに体に染み付き、何年経っても忘れないようになるのです。三つ子の魂百まで、とはよく言ったものです。

もう一つ大事ななのは医の技を最高レベルに磨くことです。医の技を最高レベルに到達させることは一朝一夕には不可能です。しかし、西和医療センターでは、最高レベルの医の技を持っている先輩医師がたくさん在籍しております。彼らから、医の技を真近に見て、体験してください。

人が人間として成長していく上で、読書は大変重要なものです。読書には多読と精読があるように、医師として成長する為にも、多くの症例に接することと、症例を深く科学することの両方が必須です。若い時に触れたことのない疾病は、上手に対処することが困難なものです。若い時は、貪欲に多くの症例に触れることが重要です。しかし、ただ、多くの症例に触れるだけでは、医師としての科学的な素養を醸成することは困難です。時には、症例を深く掘り下げることが必要です。その分野の最新知識を勉強し、目の前の症例に還元すること、そしてそれを、学会で発表し文字として残すことが重要です。このような精読を、全ての症例で実践することは時間的に不可能ですが、時には大事なことです。この様に、多読と精読の両方を実践しやすい環境としては、私は病床数が300-400床前後の病院が最適かと思います。病院も大きすぎるとセクショナリズムも強くなりすぎ多読が難しくなり、病床数が少なすぎると精読が難しくなります。

西和医療センターは、医師としてのスタートを切る最適の研修病院であると、信じております。私も皆様が、充実したより良い医師としての人生のスタートを切れるように誠心誠意尽力いたします。一緒に医療に携わる喜びを共有いたしましょう。



総長 齋藤能彦

「教育は西和医療センターの礎」(必ず読んでください)

奈良県西和医療センターでは、最高レベルの医師臨床研修を目指して、プログラム作成をして参りました。そのレベルは、ここで研修し大学病院などの様々な専門医プログラムに羽ばたいて行った卒業生たちの実力を見ていただければ、理解していただけると思います。

奈良県西和医療センターは、基幹型臨床研修病院ですが、同時に地域に密着した、重症急性期医療を担う地域医療支援病院でもあります。奈良県西部に暮らす県民 30 万人の命と健康を守っています。最後の砦といわれる大学病院とは異なる、最前線の医療機関ですので、診断がついていない、しかも重篤な患者さんの最初の診療を担うことが使命です。そのためプライマリ・ケア、救急医療、総合診療を 2 年間の重要な研修テーマとしたうえで、専門的な診療科での研修を展開するようにしています。ローテートは、1 年目で必修診療科をまわりますが、まずは内科での研修から開始します。内科での研修を通じて、プライマリ・ケアでの実践を行い、医師としてのプロフェッショナルリズムを学び、自らの姿勢を確立していってまいります。そして救急科、麻酔科、小児科、外科などの必修診療科での研修を通じて、あらゆるジャンルに精通する知識と技術を培ってゆきます。2 年目の研修では将来を見つめて、より専門的な外科系診療科のがんの手術や様々な鏡視下手術、脳神経外科手術、心臓血管外科手術だけでなく、内科の消化器内視鏡手術や循環器のカテーテル手術のチームに入って学んでもらいます。救急医療においては、研修医 1 人あたりのファーストタッチ件数は 500-600 例にもなるため、実践での豊富な経験に裏打ちされた知識と技術が身につきます。このような最前線での医療を担うために、研修医には様々な教育の場を提供しています。この冊子を読んでいただくと、その内容の豊富さに気づいてもらえると思います。最新の正しい知識と、最前線での実践経験とを統合して、医師としての技術「医の技」を学んでもらえたらと思います。研修医として過ごす 2 年間は、後の医師人生における「医の心」を形成する最も重要な時期です。先輩の真摯な診療態度や患者さんに対する思いやりのあるコミュニケーションを間近で見ることによって、医師としてのプロフェッショナルリズムを醸成してもらえると信じています。2020 年から 2022 年は COVID-19 に翻弄されています。世界が困難に直面している中、奈良県西和医療センターも COVID-19 の診療を通じて、県民の命を守るため病院の職員一丸となって取り組んでいます。このような最前線に立つ市中の一般病院での医療活動を若い研修医時代に経験しておくことは、どのような専門医コースに進むにせよ、必ず医師としてのしっかりした土台になります。皆さんの成長があつてこそ病院も成長し、地域になくってはならない愛される医療機関になってゆけると考えて、教育に取り組んでいます。皆さんと共に学べる日を待ち望んでいます。



病院長 土肥直文
(臨床研修統括責任者)

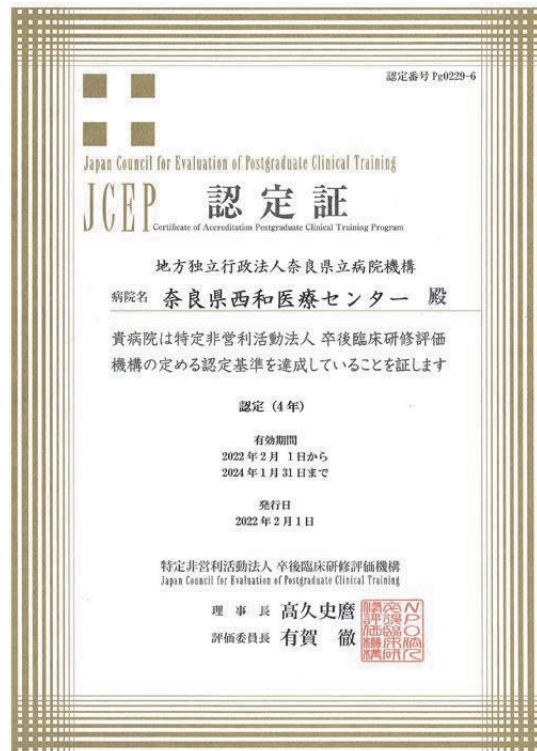


卒後臨床研修評価機構（JCEP） 認定を受けました

卒後臨床研修評価機構（JCEP）による臨床研修内容の審査を受けました。

基幹型臨床研修病院は、第三者機関による臨床研修の内容、実態についての評価を受けることが推奨されています。当院の臨床研修プログラムおよびその実態について、2017年12月12日にNPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）のサーベイヤーの先生方の調査をしていただきました。事前の書類審査および、サーベイ当日にも臨床研修に関わる記録の詳細をチェックしていただき、病院内での実際の研修を病棟や救急外来で調査（実際に電子カルテの前で受け持ち患者さんに対する関わり方をプレゼンテーションする）していただきました。まる1日の調査を終えて、最後の講評で、サーベイヤー（全国的に有名な医療機関の指導医の先生方）から「自分が研修医ならこの病院で研修したいと思う研修内容になっていて、実際の研修医も活発で生き生きしていました」という感想をいただきました。準備は大変でしたが、審査をうけて初めて分かることもあるので、今後も研修内容がもっともっと良くなるように、改善する努力を続けていきます。当日のサーベイヤーの審査の結果を、JCEP事務局でさらに審査して頂き、4年認定を頂くことができました。

2021年12月に再認定の調査を受け、当センターの臨床研修プログラムはより良く改善するための課題をもらいつつも高く評価していただき、再認定されました。



病院概要

1 診療実績（令和3年度）

入院患者数

延入院患者数	63,048名
新規入院患者数	5,682名（15.6名/日）
平均在院日数	11.1日
病床稼働率	85.10%
緊急入院患者数	2,876名
外来患者数	146,892名（604名/日）
救急車搬入件数	2,282件
時間外患者数	3,871名
心肺停止状態搬送患者数	47件
病理解剖	2例
臨床病理検討会（CPC）	5例（7月,10月）

集学的循環器病治療センター

心臓カテーテル検査	490件（診断は144件）
冠動脈カテーテル治療	207件
カテーテルアブレーション	113件
末梢血管の血管内治療	98件
ペースメーカー、植込み型	
除細動器手術	72件
心臓血管外科手術件数	192件
脳卒中手術件数	163件

総手術件数

外科手術件数	400件
腹腔鏡下手術	256件
単孔式	44件
脳神経外科	253件

2 診療体制

標榜診療科

内科、腎臓内科、循環器内科、消化器内科、消化器・糖尿病内科、呼吸器内科、脳神経内科、感染症内科、小児科、外科・消化器外科、脊椎脊髄外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科・形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、呼吸器外科、病理診断科、腫瘍内科、心療内科、糖尿病・内分泌内科

病床数 300床（ICU 4床・CCU 4床）

診療科別医師数（ ）内は非常勤または兼務

診療科	員数	眼科	2
腎臓内科	4	産婦人科	2
循環器内科	13	リハビリテーション科	1
消化器内科	7	耳鼻咽喉科	2
脳神経内科	(2)	泌尿器科	3
呼吸器内科	2	皮膚科・形成外科	3
感染症内科	(2)	放射線科	4
外科・消化器外科	6	麻酔科	(1)
脳神経外科	2	中央臨床検査部	1
整形外科	4	初期臨床研修医（一年次）	8
心臓血管外科	2	初期臨床研修医（二年次）	8
呼吸器外科	(1)	救急科	0
小児科	4	合計	84



奈良県西和臨床研修病院群



奈良県総合医療センター



奈良県西和医療センター



奈良県立医科大学附属病院



ハートランドしぎさん
(信貴山病院)



国保中央病院



南奈良総合医療センター



郡山保健所
(行政)



奈良県総合リハビリテーションセンター



神奈川県三浦市立病院
(連携病院)



上野病院



やわらぎクリニック



大阪曙明館病院



奈良県立病院機構理念

“医の心と技”を最高レベルに磨き、
県民の健康を生涯にわたって支え続けます

奈良県西和医療センター理念

- ・患者さんを家族のように愛する
- ・いい医療をより多くの患者さんへ

奈良県西和医療センター基本方針

1. 西和地域における重症急性期を担う基幹病院を目指し、公立病院としての役割を果たします。
2. 患者さんおよび地域社会に満足いただける病院を目指します。
3. 将来の医療を担う「心と技」を兼ね備えた医療人を育成します。
4. 職員が働きがいを感じ、満足できる病院を目指します。

研修理念

- 1 人としての医師の人格を涵養し、生涯にわたり自己研鑽する医師を養成する。
- 2 日常診療に必要な幅広い基本的診療能力(態度・技術・知識)を習得し、チーム医療ができる 医師を養成する。
- 3 公的医療機関の一員として、いかなる時も地域社会に貢献する責任感を有する医師を養成する。

プログラムの特徴

1. 医師だけではなく、院内のすべてのスタッフがみんなで臨床研修医を育てる環境を整えている。
2. 内科系・外科系を問わず圧倒的な救急診療を経験する。
3. 少数精鋭主義（各学年 10 名のため、同じ診療科に 2～3 名までのローテート）のため、研修医ひとりあたりの経験が豊富である。
4. 集学的循環器病治療センターを有しており、循環器系疾患や脳神経疾患などの高度医療（手術や血管内治療）が充実している。
5. 中央内視鏡部門が強化されており、内視鏡を用いた高度な治療を含む消化器疾患の症例数が多い。整形外科、脳神経外科、外科・消化器外科、心臓血管外科では、高度で多彩な研修をしており、外科医を目指す研修医にとっても優れた環境です。
6. 指導医だけでなく、院内・院外のエキスパートによるレクチャーやケースカンファレンス、Clinical English Training など 2 年間を通した全体学習に力を入れている。
7. 地域医療研修として、奈良県内のへき地医療、緩和医療、保健所での行政などを経験できるほか、神奈川県地域医療研修も選択できる。
8. 2 年目のプログラムは 3 年目に選択する専門医コース等の進路に合わせた様々なプランの作成が可能で、奈良医大附属病院や奈良県総合医療センターから選択できる。



奈良県西和医療センター—臨床研修の実際

1) 臨床研修の目標

奈良県西和医療センターの研修では、臨床の実践のなかで、患者さんに提供する医療への責任感と思いやりの心を育てることを大切にし、医療者としてのプロフェッショナルリズムを生涯にわたり研鑽する医師を育てることを目標としています。

2) 診療科での研修

当センターでは、common diseases や救急診療などの地域に密着した基本診療から先端医療まで幅広い研修を用意しています。初期研修1年目では6ヶ月間以上の内科研修に加え、麻酔科を含めた救急医療研修、さらに一般外科や小児科、産婦人科、地域医療といった必修診療科を研修します。研修1年目では、医療現場で患者さんの力になるための『技術と心構え（臨床医のスピリット）』を形成する期間であると同時に、いち社会人として成長する期間でもあります。診療科研修では上級医からの医療業務・医療技術の指導だけでなく、看護師や技師・薬剤師、医療事務の方などすべてのスタッフから修得すべき『臨床医のスピリット』を学びます。

当センターの研修は、医師として幅広い経験を積んでいただくために総合内科・総合診療を中心とした研修を目標としており、症候から診断に至るまでの論理的な思考過程をたどる臨床推論能力をつけることを重要視しています。内科初診外来での診療研修だけでなく、年間2500～3000台の救急車搬送（二次救急）による救急患者さんやwalk-inの救急患者さんの初期対応を担当し（研修医ひとりあたり500～600症例。2017～2019年実績に基づくデータ）、上級医の指導を受けます。当直では、内科系、外科系、小児科当直の指導医のもと、救急外来に来院されるすべての患者さんの診療に当たります。圧倒的な数の重症救急疾患を経験することで、重症例の初療や、病棟での急変時にも適切に対応できる技量をつけることができます。麻酔科での研修においては、麻酔の研修とともに（研修医1人あたり）50～100例の気管挿管を含めた麻酔症例を指導医立会いのもとに経験します。その経験数は圧倒的であり、研修後の救急外来での重症患者さんの対応に非常に役立ちます。

このように、初期研修1年目で重症救急患者さんの初期診療を豊富に経験することで、第一線で活躍できる医師としての技術と心構えを学び、2年目以降は救命救急センターなどの専門的研修にも自信を持って参加することができます。各診療科での研修の特色については、次ページ以降をご覧ください。

3) 全体学習で力をつける

研修医は2年間を通して、ほぼ毎日、早朝と夕方に全体学習の時間をとっています。どの診療科で研修を受けていても、夕方には研修医室に戻って勉強します。月曜日の朝は、研修医による『研修医のためのモーニングカンファレンス』からスタートします。救急やプライマリケアの診療にとっても重要なTIPSを、ファシリテーターである上級医監修のもと、研修医がプレゼンテーションします。カンファレンスには、全研修医と専攻医、6-10年目の上級医に指導医や診療部長も加わります。発表する研修医にとっては、担当するテーマについて勉強して、さらに発表するため、インプット・アウトプット能力の向上にもつながっています。

各診療科が研修医に対して行う勉強会には、消化器内科が主催する『消化器疾患スキルアップセミナー』、放射線科主催の『画像の読影トレーニング講座』、循環器内科主催の『心電図判読トレーニング講座』を定期的に開催しています。また、感染制御内科の北和也先生が主催する『感染制御内科ケースカンファレンス』では感染症疾患の基本的考え方、抗菌薬の使用法の考え方を学びます。中村孝人先生（ヶ丘医療センター呼吸器内科部長）の『総合診療カンファレンス』では、豊富な総合診療の経験から臨床推論を論理的に研修医に伝授します。さらに、Bolstad先生による『Clinical English Program』では、日常会話ではなく医学的議論・臨床テーマについて英語で議論する訓練もあります。臨床医は、英語を駆使できる能力が必要であり、このプログラムで英語のアウトプット能力が高まります。

また、外部の専門医師による勉強会も定期開催しています。年4回、当院と奈良県総合医療センターとの共催で開催している、NHK総合診療医ドクターGの元祖である洛和会京都医学教育センターの酒見英太先生による総合診療ケースカンファレンスは、症状や身体所見から診断に至る臨床推論の考え方を磨く講座です。さらに、臨床研修で著名な医師を外務講師として招聘し、研修医向けの教育講座（多くはカンファレンス方式）を開いています。そのほか、毎週の死亡症例検討会だけでなく、病理解剖症例も1年に10～15例程度あり、病理と臨床のカンファレンスであるCPCも定期的に開催されていますので、真の病因に迫ることが可能です。これらの全体学習を通して、2年間、どのような診療科を選択しても、

しっかりした臨床的思考が身につくように研修プログラムを作成しています。

4) 臨床で必要な手技のトレーニング

手技の習得は、臨床研修トレーニング室でシミュレータを使用して、気管挿管、中心静脈カテーテルの挿入、腰椎穿刺などの訓練を行い、実際指導医が臨床の現場で行う手技を繰り返し見たとうえで、指導医が助手について実際の手技をしてもらいます。安全で繊細な手技を習得するためには、指導医の手技を繰り返し観察することが最も重要なポイントです。研修医数に対してこのような手技の回数が圧倒的に多い現場ですので、臨床処置の手技は必ず習得できます。さらに、毎年7月に行う、神奈川県にあるテルモクリニカルシミュレーションセンターでは、様々な場面での診断・処置・治療の進め方やチーム医療を体験学習し、普段は経験困難な外科的気道確保（輪状甲状軟骨切開）など特殊手技の実習も行います。

5) 2年目研修プログラムの内容

2年目の研修プログラムは、1年目の研修をしながら将来を見据えて決めてゆく方式をとっています。2年目の研修先は「奈良県西和医療センター」および「奈良県総合医療センター」「奈良県総合リハビリテーションセンター」「奈良県立医科大学」「国保中央病院」のすべての診療科および「信貴山病院精神科」「奈良県郡山保健所」から、一定の期間選択することが可能です（奈良県立医科大学のすべての診療科を選択できますし、三次救急をはじめとする重症症例が多く集まる奈良県総合医療センターの集中治療科や、終末期医療や消化器疾患を広く学ぶことができる国保中央病院を選択することもできます）。また、地域医療の枠での研修先は、へき地医療を学ぶことができる南奈良総合医療センター、地域医療と総合診療教育に定評のある北和也先生のやわらぎクリニック、回復期医療を学ぶことができる奈良県総合リハビリテーションセンター、および神奈川県で地域医療プログラムに定評があり、地域巡回診療を行う三浦市立病院（三浦半島の最南端にある漁業の町）から選択可能です。

2年目のプログラムは、1年目終了時点で調整し、適宜希望に合わせて追加調整しますので、臨床研修医支援室でプログラム責任者や指導医と話し合っ、各人の将来も見据えながら決めてゆけばよいと思います。

6) 専門医を目指す3年目以降の進路について

進路希望が決まっていれば、その希望に沿うように全力でサポートします。進路が決まらない場合や迷っている場合には、どこでどのような専門研修を行うことができるか、日本全国を視野に入れて相談に応じます。各大学の医局に所属する従来方法以外に、奈良県立病院機構に残って専攻医（専門医コース）としての採用も可能です。また初期研修に関与した各種事務手続き（専門医申請書類など）が必要となった場合も、研修終了後何年経過していても全面的に協力します。研修を修了した先輩医師には、行政機関での勤務や海外の大学院入学を目指す方もおられます。医師としてどのような将来を志すとしても初期臨床研修からスムーズに移行できるように、様々なキャリアプランの相談に応じます。

7) まとめ

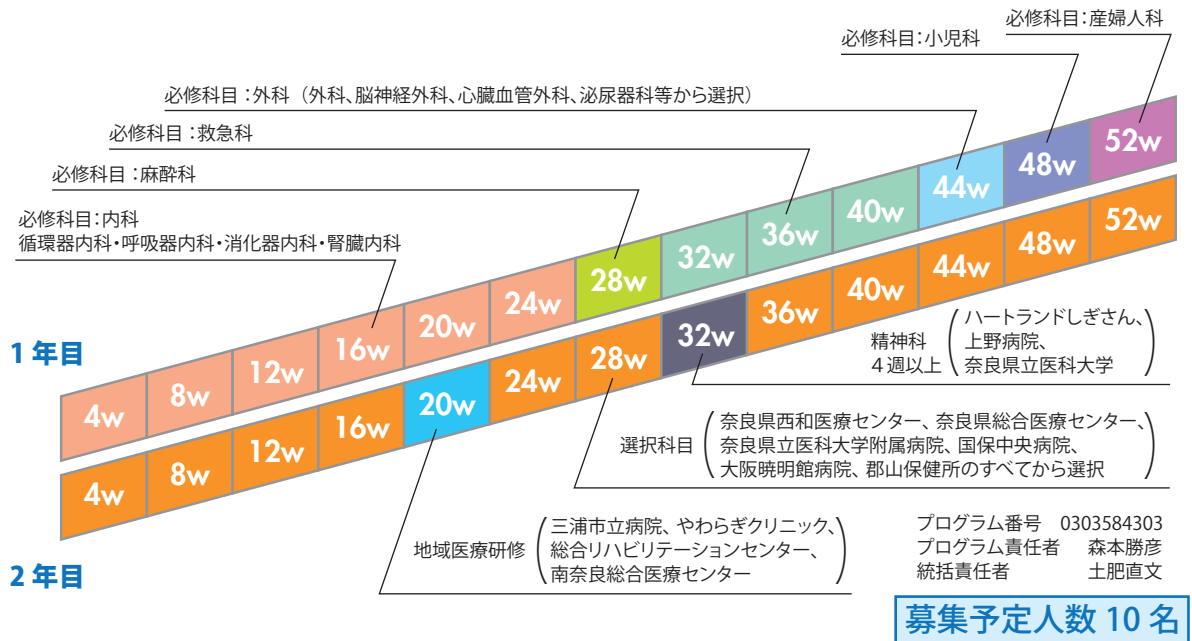
奈良県西和医療センターは、地域密着型の基幹病院（地域医療支援病院）であり、集学的循環器病治療センターや消化器がん低侵襲治療センターなどを有することからもお分かりいただけるように、プライマリケアから重症救急医療まで様々な症例を経験できる診療体制をとっています。当センターでの初期研修の特徴は、最前線の医療現場で豊富な症例数を経験し、熱い指導を受けることで『臨床医のスピリット』を培うことができる環境にあります。これを読んでいるみなさまが奈良県西和医療センターでの研修を希望されることを強く期待すると同時に、私たちと一緒に仕事をし、一緒に苦勞する臨床現場で共に学ぶ日々を待ち望んでいます。そして新研修医となったみなさまが、しっかりした臨床的思考のもと、思いやりの心と、人の命に対する責任感を持って目の前の患者さんのために全力をつくすことができる、本当に魅力的な医師に育つように、私たちが全力でサポートします。

臨床研修医支援室長 森本勝彦

2023 年度募集

奈良県西和医療センター臨床研修プログラム

(募集定員 10 名)



科目について

●必修科目

内 科：総合内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科から最低24週（※教急外来における基礎研修を含む。）

麻 酔：救急救命に必要な基礎技術の習得

外 科：初年度の4週間に於いて外科的疾患の初期治療を習得する。

外科、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科等の中から選択。

小 児 科：小児科に必要な基礎技術の習得

産婦人科：産婦人科に必要な基礎技術の習得

精 神 科：精神科に必要な基礎技術の習得

救 急：救急科における重症患者を中心とした救命医療の修練

奈良県総合医療センターまたは県立医科大学附属病院の救命救急センターでの研修も選択可能

地域医療：へき地医療、中小病院又は在宅医療実施診療所での外来診療を中心とした研修。

三浦市立病院地域医療科（神奈川県三浦市）、やわらぎクリニック（在宅医療実施診療所）

奈良県総合リハビリテーションセンター、南奈良総合医療センター

※地域医療研修は2年目の選択期間中に行う

研修科	研修病院選択			
全診療科	奈良県西和医療センター	奈良県総合医療センター	奈良県立医科大学附属病院	南奈良総合医療センター
精神科	ハートランドしぎさん（信貴山病院）	奈良県立医科大学附属病院	上野病院	—
地域医療	三浦市立病院	やわらぎクリニック	奈良県総合リハビリテーションセンター	南奈良総合医療センター
行政	奈良県郡山保健所	—	—	—

●選択科目

奈良県西和医療センター、奈良県総合医療センター、奈良県総合リハビリテーションセンター、奈良県立医科大学附属病院、国保中央病院、南奈良総合医療センター、やわらぎクリニック の各病院および郡山保健所に設置されている診療科すべて

